

戦争の悲劇 子供たちに語り継ぐ

310万人もの尊い命が奪われた太平洋戦争——子どもたちへ、その戦争の悲惨さや平和の尊さを語り継ごうと、グループ〈わ〉が「戦争の語り部」活動を始めて14年になります。これまで訪問した小学校は42校。今年度は初めて中学校へも出向きました。語り部の中心メンバーは80歳を超え、「この先どのような形で継続していったらいいのか。後継者は見つかるのか」。大きな不安をかかえて活動を続けていますが、グループ〈わ〉にとっても大きな課題となってきています。そこで、会員の皆さんに語り部活動の現状を知ってもらおうと誌上座談会を開催しました。(広報・井口久美子、永野知己)

語り部6人、平和の尊さを訴え14年



渡辺寛治(国10)
81歳(灘区会)



濱岡吉孝(福4)
82歳(西区会)



西阪順三(生8)
81歳(兵庫区会)



村田洋一(一般)
81歳(長田区会)



米倉澄子(一般)
78歳(東灘区会)



加藤勇治(美10)
72歳(北区会)

一番怖かった体験

——一番怖かった戦争体験は。

西阪 昭和20年6月5日の神戸大空襲です。自宅が全焼。母と姉2人が亡くなり、父は顔にひどい火傷を負いました。私は、燃え盛る火の海を逃げ惑い九死に一生を得ましたが、下の姉の黒焦げになった遺体を発見し、自宅の焼け跡で茶毘に付したことは一生忘れられません。

渡辺 6月5日の大空襲で自宅は焼失。安全な場所を求めて家族と市内の防空壕を転々としながら、火の中を逃げ惑いました。家族は全員無事でしたが、叔母宅にいた祖父が亡くなりました。

米倉 その空襲で灘区の自宅が全焼。バラックで家族9人、生きるのが精いっぱいでした。

村田 やはり6月5日の神戸大空襲ですね。家中のガラスが破損。私自身も米軍P51機に追いつまされたことや、空襲の後、地下壕で亡くなった人の遺体が、マネキン人形のように山積みされていた光景は、今でも目に焼き付いています。

濱岡 学徒動員で飛行場の整備へ行っている時、グラマン戦闘機の機銃掃射に遭い九死に一生の体験をしたことです。戦後もしばしば夢を見ては飛び起きることがありました。

加藤 私は幼かったこともあり、悲惨な体験は少ないのですが、疎開先が六甲山の後背地だったので、空襲で燃え上がった神戸市街地の上空が赤く



19年8月学童疎開に出発、三宮で見送る父母たち

染まった光景や、防空壕の暗い夜の記憶が僅かに残っています。また、終戦の直前に父親がマニラで戦死しました。

集団で学童疎開

——学童疎開はいつ、どこへ？

渡辺 国民学校の6年生で三宮に住んでいました。疎開の対象は3年生から6年生まで。私は、3年生と一緒に兵庫県印南郡(現加古川市)へ、19年8月～20年3月まで疎開していました。

米倉 私は、渡辺さんより3学年下で自宅は灘区でした。19年9月に淡路島へ疎開しましたが、空襲が激しくなり、20年6月には出石へ移動。10月末まで神戸に帰れませんでした。不潔な環境と栄養失調で皮膚病に悩まされました。

濱岡 大変な状況でした。私は学童疎開の経験はありませんが、19年秋(旧制中1年)、父を上海

神戸大空襲…火の海を逃げ惑った

に残し着の身着のまま、母の郷里の小野市へ。引揚者としての辛酸を数多く経験しました。

西阪 私は生田区に居住。旧制中学の1年生になっていましたが、学童疎開が始まった年は国民学校6年でしたので、19年8月～20年3月まで岡山県御津郡へ集団疎開。疎開先では、生徒60人に先生が1人で、寺の住職の説教を聞いたり、洗濯、風呂の水汲み、食料の買い出しをする毎日でした。

村田 西阪さんと同じ旧制中学1年生で、灘区に住んでいました。小6の8か月間、印南郡へ疎開しましたが、毎日ひもじい思いとノミ、シラミに悩まされ、ほんとうに辛かったですね。

加藤 皆さんより10歳近く下で、終戦時は3歳9か月でした。18年大阪市から神戸市北区（母の実家）へ戦時疎開。その間に大阪の自宅は空襲で焼失。成人するまで母の実家で過ごしました。

衣食は全て配給制度

――当時の生活状況は。

米倉 疎開先（寺）では、毎日天井が映るほど薄い雑炊。口に入るものは何でも食べました。国民学校入学と同時に、少国民としての教育を受けました。

西阪 私も、明けても暮れても雑炊と菜っ葉汁。疎開先では、カエルやバッタを取って串焼きにして食べました。自宅では、夜は何時でも飛びだせ



神戸大空襲で焼け野原になった神戸の街

るよう着の身着のまま。母親は食料を集めるのに精いっぱい状況で、学校へ行ってもまともな勉強はありませんでした。

渡辺 そうでした。主食は配給制（1日1人、米2合1勺）となり、学校も軍事一色。天皇陛下に忠誠を尽くすことを基本にした教育でした。

村田 その米の配給もだんだん雀の涙ほどになり、豆かす、トウモロコシ粉が主となっていきました。入学した中学校でも、再三の警報発令で登校できず、勉強ができず悔しい思いをしました。



家財道具を担いで避難する神戸市民

濱岡 衣食に関わるあらゆるものが配給制となり、敗戦近くなると米が不足。イモ、コーリャン、トウモロコシなどになりました。「欲しがりません勝つまでは」をモットーに我慢を強いられ、私たちは、いつも空きっ腹を抱えていました。

紙芝居が唯一の楽しみ

――神戸の街の様子は。

西阪 商店には品物がなく開店休業状態で、百貨店も陳列してあっても配給切符が必要でした。駄菓子屋もお菓子はなく、塗り絵やベッタンなど遊び道具ばかり。週に1回紙芝居がやって来て、酢昆布を買って見るのが唯一の楽しみでした。

渡辺 大丸が近くにあったので屋上の遊戯施設によく連れて行ってもらいました。駄菓子屋では、一銭で飴や酢昆布を買い、ベッタンやラムネ玉で

◆太平洋戦争 神戸大空襲

昭和16年（1941年）12月8日、日本軍の真珠湾攻撃で日米開戦。太平洋戦争が勃発。20年8月6日広島に、9日に長崎に原爆が投下され8月15日に日本はポツダム宣言を受諾し無条件降伏した。この間3年9か月。相次ぐ本土への空襲で日本の92の大中小都市は壊滅。この大戦で軍人・民間人など310万人もの命が奪われた。

神戸空襲はB29爆撃機により17年4月～20年8月までに計82日、128回。15万戸が焼失、15万人が負傷、8800人が犠牲になった。終戦半年前に集中しており、2月4日、3月17日、5月11日、6月5日、8月6日の空襲を神戸大空襲という（「神戸市史」）。東京大空襲の2倍、3000トンの焼夷弾が投下されたといわれる。

「wikipedia」など参照。

学童疎開…カエルもバツタも食べた



平成26年8月 熱心に耳を傾ける西区西神中の生徒(永野撮影)

遊んでいた記憶があります。

濱岡 20年6月5日の神戸大空襲で、百貨店や元町など市内の商店街は壊滅状態になり、駄菓子屋も消滅してしまいました。

真剣に聞く子供たち

——子どもたちの反応は。

村田 身近な話の中から、空襲の怖さ、生活の苦しさを感じてくれているようです。

渡辺 私語もなく、懸命に耳を傾けてくれる態度に感心しています。

西阪 語り部を始めた頃は、当時を思い浮かべて私も涙声になってしまい、泣き出す子もいて胸がいっぱいになりました。

濱岡 どの学校の子どもたちも110分もの間、真剣に聞いてくれ話し甲斐があります。

加藤 本当にそうです。私も、子どもたちの目の輝きを励みにしています。

米倉 ほとんどの子どもたちは、「空襲は広島、長崎だけかと思った。神戸の街が焼け野原になったことは初めて知った」といいます。

語り部となって

——皆さんが語り部となったきっかけは。

加藤 私は先の大戦で父親を失い、疎開生活(母の実家)を送ることになったので、その体験を伝えたいと思い、自ら参加しました。

濱岡 シルバーカレッジ在学中(平成12年11月頃)

に、母校である東須磨小学校から、依頼があったので、クラスメート2人に協力を求めて始めました。今後も、身体が続く限り続けていきたいと思っています。

西阪 カレッジ卒業時、当時の学習支援委員会の中沢代表に勧められ参加しました。

渡辺 「昔遊び研究会」での活動を通じて参加するようになりました。

村田 60年頃から自分史を書き始め、「集団疎開」をまとめていたところ、これを見た友人が参加しないかと誘ってくれました。

米倉 私は、新聞への投稿(学童疎開)がきっかけで、小学校から依頼を受けました。——子どもたちへは、どのような話を。

濱岡 現在は、テーマ別に担当を決めています。

①太平洋戦争中の神戸大空襲(濱岡) ②大空襲下の体験談(西阪) ③学童集団疎開の体験談(村田・米倉) ④質疑、応答(渡辺) ⑤映像操作(加藤)となっています。



疎開先で、子どもたちはノミやシラミに悩まされた

村田 私は学童疎開が担当なので、疎開先のお寺ではお経読み、稲刈り、風呂炊きが仕事であり、空腹やノミ・シラミ、いじめに苦しんだことを話しています。

西阪 現在の子どもたちは、戦争中の話をしても絵空事になるので、出来るだけ戦時中の写真を集めて画像で訴えるようにしています。

——子どもたちにぜひ、伝えたいことは。

西阪 この戦争によって多くの犠牲者を出したが、そのおかげで、今日の平和があることを話しています。

渡辺 次世代、その次の世代に戦争の残酷さとその愚行の極みを語り継ぐことによって、平和の尊さを噛みしめてもらいたい。平和なくして未来に

戦後69年薄れる記憶…語り部継続を



㊦ モンペをはき救護袋を持つ人形
㊧ は防空頭巾を被る米倉さん



希望はないということを、常に考えて欲しいと思います。

加藤 私も同様です。私たちの体験談から戦争の悲惨さを実感してもらうことに尽きますね。

米倉 戦争で多くの若者が、家族のことを思いながら死んでいったことを忘れてはなりません。その人たちが築いた、今の平和を大切に守って欲しいと願っています。

村田 物がなくても、たくましく生きてゆくことの大切さを訴えたいと思っています。

濱岡 戦争は、不幸や悲しみしか生まないが、平和は、幸せや喜びをもたらしてくれます。子どもたちには、思いやりと命の大切さを考えられる人に育って欲しい、と願っています。

空襲体験者はぜひ、仲間に

——語り部を継続していくための方策は。

渡辺 語り部活動を収めたビデオの活用と、新たな人にも参加をお願いしたいですね。学習支援委員会と協働で、平和学習を盛り上げるキャンペーンを企画してはどうでしょう。

西阪 カレッジの卒業生にも空襲体験者がいると思うので、仲間に加わってほしいですね。

濱岡 語り部の有力候補は、小中学校の先生方であると思っています。末長く活動できるよう、教委や関係機関に〈わ〉から働きかけをお願いしたい。現在使用している「神戸大空襲・学童疎開」のシナリオ、映像もリニューアルして、教材ビデオを作成して欲しいと考えています。

村田 そうです。活動先の開拓も必要でしょうね。

加藤 そうですね。合わせて、語り部が高齢化していくため、語り部活動をビデオ教材にすることは急務でしょう。

座談会を終えて

戦闘員でもない市民や子供たちが、こんな悲惨な状況に陥るとは…戦後生まれの私にはとてもショックでした。「2度と戦争をしてはいけない」という語り部の方たちの願いをぜひ、継続して次世代に伝えねばと思いました。(井口)

戦争の怖さ 伝わってきた

◎井吹東小6年生の感想

▽戦争のことがピンとこない世の中だが、実際の怖さが伝わってきた ▽それほど、辛く、悲しい思いをすることは思ってもいなかった ▽静かに勉強ができてご飯がたくさん食べられて、ニコニコ笑っておられるのが、すごく幸せなんだということがわかった ▽聞いているだけで怖くてゾクッとし体が震えた ▽戦争は絶対にしてはいけない

◎糀台小6年生の感想

▽焼夷弾や原子爆弾で一瞬のうちにたくさんの命が奪われ、たくさんの物を破壊されたなんてー。戦争中心の世の中にびっくりした ▽親と離れ離れになり、ノミ、シラミ、ダニに苦しむ疎開生活はとても辛かっただろう。私なら神戸に逃げ帰っていた ▽B29や焼夷弾の構造を図や絵で説明していただき、とても分かりやすかった ▽戦争は深い悲しみと憎しみをもたらすだけ。子ども、女性、お年寄りが無差別にやられたのを初めて知った

◎先生の感想

▽児童の祖父母も戦後生まれでナマの戦争体験は聞けない。教師にも良い勉強になった ▽戦争を体験した人にしか語れない話に、戦争の悲惨さを学び、命の大切さを感じたと思う

【文中の写真・イラスト】

写真はbing.com/imagesより引用しました。イラストは語り部村田洋一氏の「集団疎開の記憶」から転載しました。

●「語り部活動」に興味、関心をお持ちのカレッジ関係者の皆さん、グループ〈わ〉の学習支援担当・俵までご連絡（743-8101）下さい。

H25年度「戦争体験 語り部活動感想文」を、小冊子に纏めました。カレッジ図書室に置いてありますので、ご覧ください。（戦争の語り部チーム）